

## 行政調査報告書「未来型施設整備研究特別委員会」

令和2年11月11日～13日

### ■AOI-PARC（静岡県沼津市） 『農工商連携の取り組みについて』

県農林技術研究所、慶応義塾大学、理化学研究所と民間企業が常駐・入居して、農業関連技術の研究開発を行っている。官民の異業種の会員が参画することで農業と他産業とのマッチング、革新的な技術開発を促し、交流やプロジェクトの支援、資金調達と人材育成を効果的に推進できることが最大の強みである。最終的には社会実証を通じて農家の所得向上を図ることとしており、このような施設が本市でも今後は必要ではないかと感じた。



### ■南町田グランベリーパーク（東京都町田市） 『公民連携の取り組みについて』



グランベリーパークは駅直結の商業施設と公園を一体整備。「まち全部がパーク」をコンセプトにしている。公民連携の協定を町田市と東急(株)で結んだ。公園等の公的空間の整備にあたり、3年間ワークショップを開催し、関係者間で時間をかけて丁寧に合意形成を図り、それがまちへの愛着と地域住民・企業・行政の信頼関係の醸成にも寄与していた。

本市においても現在の建物との共存と住民との理解と参加の誘導が必要と感じた。

### ■神奈川県 『かながわ方式による公民連携について』

水道事業における新たなビジネスチャンスを創出し、地域経済の活性化を図るとともに民間企業が自ら海外水ビジネスに参入できるよう水道事業運営の機会を提供している。

今後、水需要の大きな伸びは期待できないため、将来の財政負担の軽減だけでなく、企業育成の観点からも「かながわ方式」を参考にして検討する価値はあると考える。

